



サロン『アイ』

～思い出作り～

〈サロン・あべの〉10月の出会い

（サロン・あべの）10月の出

会いは、平成17年10月15日（日）

午後1時から育徳コミュニティ

センター2階研修室で、

「サロン『アイ』」代表の西浦清輝

さんをお迎えして、生

野区でのサロン活動に

ついてお話を伺いまし

た。

・きつかけ

「サロン『アイ』」を始

めたのは、平成11年。生野区社会福祉協議会の建物を新築した時に、ボランティア同士の交流会を作った。

・活動内容

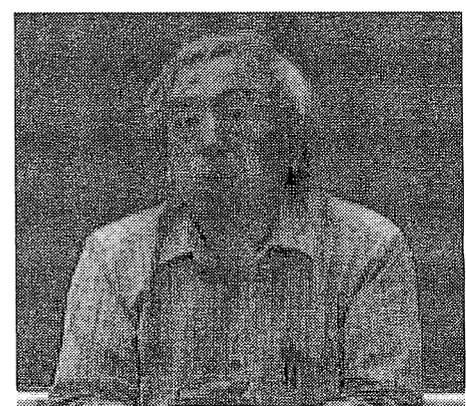
「サロン『アイ』」の活動は3つある。

(1) 偶数月の第2土曜日に出会いの開催。

(2) 奇数月の最後の日曜日に「小さな旅」と題して、関西各地に日

サロン よいとこ、 こんなとこ

サロンを立ち上げる以前から、障害のある方と旅行などしていたので、その方々と何か出来ないかと考えていた矢先、大阪市でボランティアグループの集まりがあり、サロン活動の話聞いた。それで〈サロン・あべの〉をはじめ、淀川・東淀川など、あ



「サロン『アイ』」の「よいとこ、こんなとこ」は一人ひとりの個性を大切に自然体で出会いを楽しむ～思い出作り～をすること。と、西浦さん。

帰りの旅(たまに一泊旅行)を行って行く。

(3) 毎週の土曜日午後1時より、他のボランティアグループ「一期一会」と障害者作業所と「サロン『アイ』」のメンバーたちと

いつしよに、喫茶活動をボランティアビューロー室で行っている。

・偶数月の出会い

出会いのテーマは、主に福祉関係の話で、講師に来てもらっているが、最近では「車いすで座つてでもできる体操」や「地域のアクションプラン」、「支援費制度」など、テーマの幅も広がってきている。サロン当日が雨の日は集まる人には厳しいが、それでもみんなよく参加している。この偶数月の活動内容は他区のサロンとほとんど変わりな

・奇数月の出会い「小さな旅」

「サロン『アイ』」の特徴は何ととっても奇数月の「小さな旅」だろう。

大阪・京都・奈良・兵庫など京阪神を中心に、里山やお寺巡りなどの日帰り旅行を企画している。時に、一泊で出かけることも。参加する人は、車いす使用者や重複障害の方、ボランティアの方など。

印象に残っている「小さな旅」を2〜3・・・。

1 回目は一泊で三重の山に行つた。ログハウスでの宿泊であつたが、空気が澄んでいて見晴らしもよく、とても気持ちよかつた。野性の鹿が木をかじる

お知らせ

<サロン・あべの>12月の出会い

日 時…12月3日(土)
 集合時間=午後1時(時間厳守)
 集合場所=長居障害者スポーツセンター
 内 容…サロンよいとこ、こんなとこ
 ~もういくつねると・・・来年もいい年を祈って~「サロンの食事会」
 場 所…イタリア料理
 「トラットリア ベレッツァ」
 [大阪市住吉区長居東4-6-15
 アイアイプラザ1階
 電話06-6695-5785]
 会 費…2500円
 申し込み締切り…11月30日
 申し込みと問い合わせ先…
 TEL06-6691-1028(富田慶子)

ので、幹を守るための網を直したりした。また、鹿刺しや流し素麺を食べたことなどが楽しかつた。

2 回目の一泊旅行は信太山。夜、キャンプファイヤーをし、満天の星空を眺めることが出来るかと思っていたが、周りが結構明るくて期待はずれだった。実

3 回目は琵琶湖の近江方面でポート体験をした。車いすの人も参加した。最初はなかなかみんなのタイミングが合わず進まなかつたが、慣れて呼吸が合つてくるとだんだん早く進むよう

になつていった。

「小さな旅」では、車いすを使用している人も多く参加するので、駅などのエレベーターは大きくないので、何度かに分けて上下しなければならぬことがあり、予想以上に時間がかかることも。

出かけて行くにはいろいろな困難もあるが、参加者全員で協力して乗り切っている。山辺の道など普段なかなか行けない所に行ったり、美術館や記念館見

学などを計画することもある。どこへ行くにせよ、費用は1000円くらいに収まるように考

えている。

・喫茶活動

みんなが気軽に参加して交流

できる居場所作りとして、昨年「二期一会」と障害者作業所と「サロン『アイ』」がいつしよになつて、喫茶活動を行っている。

この「ふれあい喫茶」は毎

週土曜日の午後1時頃か

ら、休みの日の居場所としてみんなの交流の場になつている。

げてゆきたい。

休憩後、参加者の感想を聞きました。

★

入浴介助の話がありました。ヘルパーの仕事をしている私もお風呂の介助は特に神経を使います。

★

マニユアルにあるとおり、下り坂では、車いすは後ろ向きで降りるのが安全。

★

「サロン『アイ』」に何度か参加したことがあります。なんともアットホームな雰囲気でした。

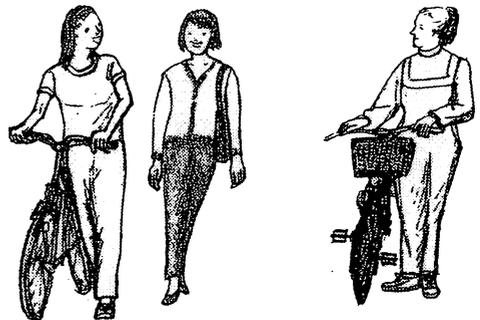
★

一人で行きにくいところでもみんな協力すれば行ける。この協力が大切なのは・・・。

★

「1000円くらいで行ける所」というと、参加する人はすごく

行きやすい、けれど、見つける人はすごく難しい。



「サロン『アイ』」のアイは、アイデンティティ(自己確立、他とはつきり区別できる個性)でもある。一人ひとりの個性を大切に自然体で出会いを楽しむことと感じた(サロン・あべの)10月の出会いでした。

(見出し)中西利香・筆

(参加者15名 山村貴司)

一人住む
部屋のポストを探るとき
もう東京の顔をしている

—— 俵 万智
(サラタ記念日)

サロンの一筆箋

一冊二〇〇枚綴り一五〇円



サロンと私

毎月第3土曜日はサロンの日。来月の予定を手帳に記す際は、まず最初に「サロン」と書き込みます。というぐらい僕のライフワークに組み込まれたサロン。なぜこのように引き込まれることになったのでしょうか・・・？そこにはいくつかの要因があります。

まず1つ目はメンバーです。いつ来ても微笑みかけてくれるメンバー。最初に来た時から親しみを持って接していただき、とつても入りやすかったです。同じように僕も新しく訪れる方々に同じように接することが自然になりました。

2つ目は自然体であること。ボランティア！何かをしなれば！というように

肩に力を入れなければできないようなことではなく、ボランティアというものは参加しているだけでその役割を担っていること、と知りました。楽に接し、自分にできることをできる範囲ですること十分であり、それ以上は自己満足になってしまい、相手にとって押し付けになってしまいます。まず、なによりさげない部分、つまりは自然体なのだと思えます。

そして、3つ目は発見です。毎回の講演の中に新たな感動、驚きがあります。阿倍野にこんな人がいたのか！大変だったろうなあ！そういう仕組みだったのか！と毎月いろんなことを発見させられます。相手のことはお釈迦様でない限りはわかりません。講演を通じて、自分自身の知識になり、同じ感動、発見を実感できるこの機会は計り知れないものです。このような素晴らしい機会を設けていただけるサロンは、恵まれた環境であ

お願い

「サロン・あべの」紙が、ホームページ (<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/> 「サロン あべの」でも検索) で、いつでも好きなときに、読みたいところを、読めるようになったので「サロン・あべの」紙はもう、送らなくてよいとおっしゃる方、そしてまた、「サロン・あべの」紙を読むのをしばらくお休みしたいとお思の方、下記へご連絡ください。

連絡先：

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町 6-3-26 TEL・FAX 06-6691-1028
富田慶子方<サロン・あべの>

り、僕はこのような場所をもっと多くの阿倍野区民に！だけでなく大阪市民に参加することを薦めたいのです。最後に毎回サロンの運営を20年間支えてこられた運営委員の方々をはじめ、関わってこられたすべての皆様にありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願ひします。

（サロン・あべの）のお茶子 壘谷浩伸

赤松 昭

「谷間」に

「くだわり」続けて

18

「司法と福祉の谷間」(その3)

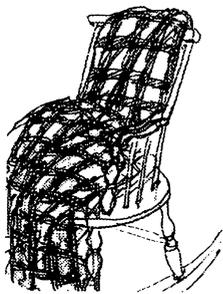
保険会社相手の裁判を経験をした人たちは怒らせる出来事が今起こっています。それは、大手損保会社による意図的な保険金未払いが次々に発覚していることです。中でも腹立たいのは「不払いへの苦情対応」です。例えば、契約者からクレームが1回だけの場合は支払いに応じず、もう1度苦情を受けたら応じる、という対応マニュアルがあって、不払いを承諾した契約者だけが泣き寝入りする仕組みになっているそうです。このあたり

は福祉行政と似ていますね。支援費の支給決定も、黙っていると担当者の決めた通りになってしまい、これでは地域生活できないと主張して初めてそこから検討が始まるという具合ですから。もしかしたら役所にも、こうしたマニュアルがあるのではないかと勘ぐってしまいます。こうした体制は顧客(利用者)の権利よりも、企業(組織)の利益確保・体面を重視する、すなわちどちらも典型的な官僚主義を体現したものと云わざるを得ません。

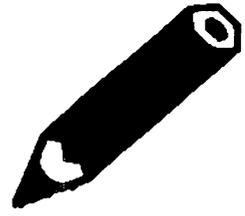
これまで私は裁判やってハッピーだった、という人に会ったことがありません。あるケースでは、相手に慰謝料の支払いを認める判決が出たものの相手に支払い能力がなく、判決内容が履行されなままなのです。ところが会う人ごとに「裁判に勝って良かったね」と言われ、ひどい場合は「子どもをダシにして金儲けをしやがって」というひどい中傷を受けたりすることもあったそうです。またあるケースでは、弁護士に高額な着手金を支払ったものの、以降はほとんど仕事をしなため、仕方なく別の弁護士を選任し直したという方もいました。さらに、裁判するなら

今後の付き合いを断る、と親戚から言われたケースも少なくないようです。とにかく、「お金」と「労力」のことを考えると、裁判をするというのは割に合わないことは確かです。なのに何故、そこまでして裁判をすることに脳損傷当事者はこだわるのでしょう？

明かな医療ミスを犯したのに一切謝罪をしない医師、家族介護を前提に算出した介護料を堂々と突きつける保険会社。被害を蒙った人間をさらに痛めつける2次被害がまかり通るような社会。そうした現状を脳損傷者とその家族はイヤというほど実感させられます。そうした中、当事者が失われた尊厳を回復するための手段が今のところ「裁判」しかない、というのがこの国の現状なのです。司法と福祉の間には、超えがたい谷間が横たわっています。



22



邦子、 ・ん歳の手習い。

自立生活・人間としての生活

10月から後期授業が始まり、社会人学生の間にも新たな気持ちで臨んでいます。10月初めには、障害者自立支援法反対のための勉強会で知り合いになった障害者の方たちが主催するフラメンコギターの演奏とフラメンコダンスの集いに行ってきました。初めてみるフラメンコダンスは、スリムなスタイルの女性が踊る美しさと力強い迫力に魅了されました。また、障害者（フラメンコギターの先生）の方が、生き生きと演奏している姿は音楽と共

にすばらしかったです。日頃、芸術とは縁遠い私ですが、音楽が身近なものに感じることができ、こういうゆとりの時間をもつのもいいものだなと思いました。

10月末には、経済学者アマルティア・セン（インド出身、98年に経済学でノーベル賞受賞）の講演会が大学であり、行ってきました。内容はあまりわからなかったので、雰囲気だけ味わってきました。センは、「適切な栄養をとっている」「健康である」「教育をうけている」などの人の福祉を表す機能の集合を「潜在能力」といっています。「潜在能力」は、社会の枠組みの中で人が選択できる機能の集合で、その人の持つている所得や資産で出来ることの可能性を表すものです。その可能性は社会のあり方からも影響を受けるので、差別を受けている場合は「潜在能力」は小さくなるというように、「潜在能力」によって差別などの分析も可能になります。「潜在能力」が大きくなれば、価値ある選択肢も多くなり、行動の自由も広がります（池本幸生他『不平等の再検討』岩波書店より）。

センの「潜在能力」は、発展途上国の支援

を研究している人にとって、関心が深いアプローチのようです。私と同じ社会人学生で看護士の磯部厚子さんは、以前、青年海外協力隊のメンバーとしてスリランカで活動したことがあり、スリランカの女性問題をセンのアプローチを使って研究しています。私はセンについてはわからないので、彼女から聞いたスリランカのお話だけを紹介します。

紅茶の原産地として有名なスリランカは、女性の社会参加、就学率も高く、他の途上国に比べると女性の社会進出が進んでいます。しかし、都市部、農村部に比べると、農園部は電気、水道、トイレが未整備で、教育、保健、所得も低い状態にあります。また、農園は昔ながらの企業が経営するプランテーション農園の管理の中で、紅茶の栽培が行われています。中でも、茶摘みは、50%以上が女性の労働によるものですが、長時間の屋外労働や低賃金などの厳しい労働条件のもとで行われています。そして、カースト制度のもとで、特に農園で働く女性は屋外労働と共に家事労働を担いながらも、社会の最も底辺に位置しています。磯部さんが、今年5月に二つの農

園を訪問した時には、女性の健康にとっても労働環境や社会環境は不十分であると感じましたが、当地の女性はおとなしく、問題点はもちろん、自分のやりたいことなどの本音は聞けなかったということとです。閉鎖的な部分も多く、農園の女性の実態を把握することはなかなか難しいようです。

紅茶の茶葉はイギリスなどに輸出され、ブレンドされるそうです。日頃私が飲んでいる紅茶には原産国での厳しい女性労働が含まれているということを初めて考えました。

(定藤邦子)

ありがとうございます。

カンパ、お茶・お茶菓子・チケット・輪ゴム、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございます。

カスタネット、K・R、池田多喜子、伊東裕子、奥田真祐美、田中千鶴子、辻本輝子、西浦清輝、東百合子、平岡太、藤井さゆり、松村美鈴、その他の方々。(敬称略)

早いもので今年(平成17年)もそろそろ終わろうとしている。毎年、この時期になると「光陰矢のごとし」とか「隙ゆく駒のごとし」といった古諺を思い浮かべるのである。前者はよく知られているが、後者はあまり知られていないのではないだろうか。ちなみに「隙ゆく駒のごとし」とは「わずかな隙から馬が走り過ぎるのを見るのはほんの一瞬である」という意味から、月日のたつのはほんとうに早いというたとえに使われる。

さてこの1年をふり返ってみると、例年の如くさまざま出来事があった。そんな中でも次のことが忘れられない。

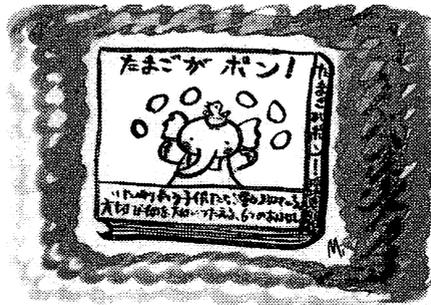
実は創作童話「たまごがポン!」の表紙絵と作品の中のへびやかえるのさし絵など

4種類をコピーしてオリジナルの絵ハガキを作ったのである。まだこの絵ハガキを使ったことはないが、いずれ有縁の人たちに送りたいと思っている。

晴れのち晴れ 86

この1年をふり返って

稲垣恵雄



「たまごがポン!」といえば、先日、富田慶子さんからこんなお便りをいただいた。『たまごがポン!』の音訳テープがデジタルCDになりました。テープと違い、半永久的に劣化しないそうです。これをデジテーブ録音図書というそうです」

音訳テープにしてもらっただけでもうれいのに、その上半永久的に保存できるというデジタルCDにしてもらえることはなおさらうれしくてありがたい。私にとってこのことが平成17年の何よりの収穫だと思っている。

時代の空気

明治には明治の、大正には大正の、そして昭和には昭和の時代の空気のようなものがあつたという。平成という元号がつく現代には、やはり平成の空気がただよっているはずである。

私が常に思うのは、国や地域に時代の空気があるように、個人にも年代に応じた空気があるのではないかということだ。

たとえば、四十代の私が、ここ何年も続けて吸っている空気がある。日々に何事か起ころうとも変わらない何かを包んでいるのである。

一つは何かを追われている気分だ。忙しいといつも思う。これまでも忙しいとは思ってきたが、これほどではなかった。特に二人目の子どもが生まれてからは忙しい。時間が無いという圧迫感のもとに、私は自分の行動範囲を少しずつ削ってきた。

もう一つは疲れである。これは三十代には無かった。身体（からだ）のたるきは、ずつ

と続いている。以前は、ひどく疲れたときにだけ感じていた唇のしびれも、今では常に残るようになっていく。

良い面をいえば、家族で行動する時間が増えたため、ここでは仕事のことを忘れてのんびりと過ごしている。多忙感と矛盾するようだが、平和で、ゆったりとした気分になることが多いのも事実である。

三十代はどうだったかという点、同じく多忙であっても外に出かけることが多かった。私の行動範囲は広がった。いまよりも自信に満ちて、波に乗って思い切った冒険をしていた。今のような疲れはなく、数時間の睡眠で、フル回転で働き、人と出会い、語り合っていたように思う。

ただ、それだけに無駄は多かった。しなくても良いことを多くしてきた。あの時代に、もつと今のように賢明に、惜しむように自分の労力と時間を使えば良かったと思う。

二十代の私は、いつも孤独を味わっていた



のれん

大阪市内を北から南に走るメイン道路「御堂筋」は、銀杏並木でも知られていますが、その御堂筋の中ほどに大阪ガスの建物があります。そのビルの御堂筋沿いの軒下で「チャリティーバザー」が10月25、26日に開催され、「さろん亭」もサロングッズを持って参加しました。行き交う人々は足早でビジネスマンやキャリアウーマンという感じで「いらっしゃいませー」「いかがですかー」の声も届かないのではという感じでした。それでも立ち止まって商品を買ったり、話しかけてくださるお客さまもおられました。が、なによりうれしかったのは、知りあいの人が会社のお昼休みにわざわざ「さろん亭」に来てくださったたり、「サロン・あべの」ののれん（バザーで使用している物）に魅かれて偶然来てくださった方がおられたことです。お一人はサロン紙を送らせていただいている海鷗トラベルの方、領収書が必要とのことでお名前をお伺いして初めて気がつきました。また、もう一人は私の小・中学校の同窓生で近くに勤務していて通りがかったら「サロン・あべの」が目にとまり、「ひょっとして…」と、戻ってくださったそうです。同窓会にもめったに参加していませんでしたので、本当に久しぶりの再会でした。また、「さろん亭」のお手伝いの方々もお仕事の都合をつけて来ていただきました。この2日間に出会った方々は「サロン・あべの」の活動があればこそその出会いだと思います。そして「さろん亭」の「のれん」のありがたみもいっそう重く感じるとともに感謝の思いも深くなりました。 (け)

……ききみみずさん

た。その孤独は一生涯つきまとうように思われた。それほど執拗に心を刺すような寂しさだった。そこから、今のように解放されようとは、当時の私にはまったく想像できなかった。

十代後半の私は、晴れることのない苛立ちを感じていたように思う。無視され、侮られているように思い、いつも誰もが自分を認めてくれないと憤慨していた。周囲の人々の態度に不公平さを感じ、何もかもが腹立たしかった。

それ以前の私は、残念ながらよく思い出せない。幼い息子が、毎日が楽しくて仕方がないようにいつも笑い、歌っている様子を見ると、私の幼い日々もこのような幸福感で覆われていたのかもしれないと思う。

このように振り返れば、時代、時代によって私を覆う空気は変わり、さらに、その時代においては次の時代の空気を全く予期していなかったことに気づく。自分が五十代、六十代、そして高齢期を迎えたとき、私は今の自分が思いもなかったような気分支配されているにちがいない。

私たちは特定の時代の空気に支配されていて、その間は以前に吸っていた空気を忘れて、それ以後に包まれるかもしれない空気に思いをよせることは少ない。

だからこそ、世代の異なる人々との理解が難しいのかもしれないし、若いときの自分や、年老いたときの自分のことも理解しがたく感じるのだろう。逆にいえば、自分が置かれている今の時代の空気を意識することで、人や自分自身への理解が深まるはずなのである。 (知)

美智子のこんな話

岸田美智子

「障害者自立支援法」成立

わが国の福祉のあり方が根底から変わってしまつてまいりました。10月18日にも大阪でこの法案に反対するための「御堂筋大パレード」を行い障害者と支援者など3000人以上集まりました。TVなどマスコミにも再三取り上げられてきました。この法案の問題点をもう一度考えてみますと、最大の問題はやはり「応益負担」から「応益負担」に変わりサービスの利用料に対して1割負担が導入され、つまりサービスの利用量が多い重度障害者の負担がより多くなることになりまふ。これは今までの「与えられる福祉」から「買う福祉」への転換だそうです。この転換は障害者を納税者として見ていくこととするも

のだと思いますが、この見方にはやはり問題を感じます。

私の周りにはいろいろな障害者の方が問題を抱えながら生活していますが、そのほとんどどの障害者は、仕事が見つからず収入がありません。それどころか、

作業所などの日中を過ごす場さえ見つけにくいのが現状です。そんな現状なのにこの障害者自立支援法では、作業所を利用する障害者からも給料より高い利用料が考えられています。会社に働きに行くのにお金を払わなければならぬ。ましてや給料より高い額を！このような矛盾をどう考えたらいいのか。せめて作業所やグループホームなどの障害者からは、利用料を取るのはやめるべきです。その上でまだ不安が残る問題もあります。やっとの思いで地域で自立生活をしている重度障害者の多くが、障害基礎年金だけではやっていけず、生活保護制度を受けて暮らしています。この生活保護制度についても見直されつつあり、家賃扶助の予算については国の保障から

は外され、市町村任せになっていくと聞いています。もし、そうなってしまうとますます地域での重度障害者の自立生活が脅かされていくのは目に見えています。このような現状こそ変えていく具体的な国の施策が求められています。例えば、障害基礎年金の大幅な増額や生活保護制度ではない重度障害者への家賃扶助制度、そして重度障害者でも働ける職種や職場作りなどです。さらに今の支援費制度では、通勤通学には利用できないという制度上の問題もなくしていくべきです。このように応益負担に関してだけでも問題だらけです。障害者自立支援法は、来年の4月から実施されると聞いていますが、それはとても危険なことだし、それよりもより具体的な障害者への生活保障や介護保障が打ち出されるべきだと思つたのですが・・・。

○連絡先

社会福祉法人あいえる協会
自立生活センター・MY・DO（まいど）
〒558-0002

大阪市住吉区长居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-66609-3133

FAX 06-66609-3210

Eメール cl-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

ひとつずつ
ひとつだけの世界

— フェイクマフラー —



池内沙織



【牛乳パックでフェイクマフラーを作りましょう】

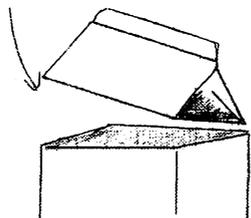


★材料

- ・市販の紙パック
(牛乳・ジュース) 1000ml
- ・フェイフェア (1玉 1980円)
または極太タイプ 1玉

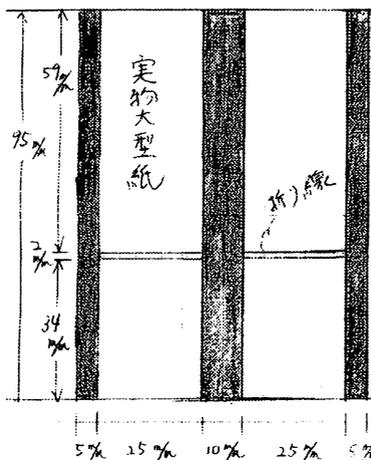
★編み器具の作り方

(1) 三角部分をカットする



(2)

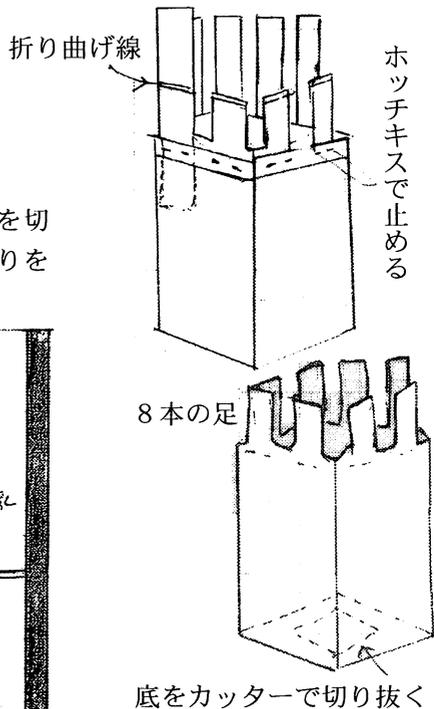
図の寸法で実物大の型紙を切り、ボール紙などに型取りをして、



下図のように線描きし、黒い部分をカットする

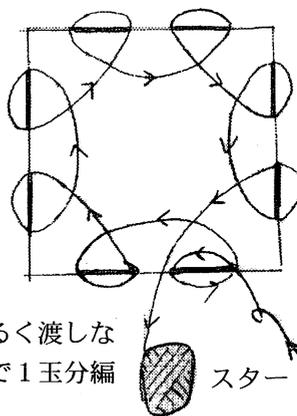


(3) 折り曲げ線を8本内側に折り、内側からホッチキスで止める。その部分をセロファンテープでカバーする。



底をカッターで切り抜く

★編み方 リリヤーン編み



約15cm糸を残す

2段目からは糸をゆるく渡しながらリリヤーン編みで1玉分編み上げて出来上がり。

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



— 問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織 —
〒567-0048 茨木市北春日丘4-9-24 井上ビル101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail: tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力でくサロン・あべの)紙第232号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) くサロン・あべの)紙は、第1号より第232号までそろっています。
- (b) くサロン・あべの)十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「くサロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳※)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳※)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ばけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳※)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳※)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳※)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送6月26日と9月18日)の録音テープご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後の※印はディジー録音

友弥くん 咲子ちゃん、ファイト!

こんにちは、お変わりありませんか。会報が届き一気に読みましたよ。

今月号(231号)は、なんと言っても「あれ」ですね。あべのカーニバルで「さろん亭」のバザーをお手伝いした、原田友弥君と咲子ちゃんの感想ですね。

「役に立ててよかったなあ」は、荷物運びに汗を流したこと、咲子ちゃんへのバトン渡しに見せた思いやりは、気持が伝わってきていいですね。

「みんなやさしいなあ」は、多くの人の行動が咲子ちゃんの心に優しさをプレゼント出来たとすれば最高です。

ファイト!とエールを贈りたいです。

続きは後日に。ではまた。

よしおか



SALOON

隣組ニュース

12月はどここのサロンの、どのテーマが
気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」12月の出会い

日時：12月18日(日)午後1時30分～4時
内容：今年最後のサロン、思いっきり楽しみませんか
※犬の置物作り、マジックショー、ビンゴゲーム、他多数の催しを計画しています。
会費：なし
場所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」12月の出会い

日時：12月10日(土)午後2～4時
内容：クリスマスソングを歌おう！
会費：なし
場所：西区在宅サービスセンター6階
ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14(西区役所隣)
地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ
市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ
☎06-6539-8075
問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」12月の出会い

日時：12月17日(土)1時～4時
内容：クリスマス演奏会&ビンゴゲーム
参加費：100円(ビンゴゲーム、ケーキ代として)
場所：西淀川区民ホール
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎06-6494-0635
中本 ☎090-9864-9678

■「サロン「アイ」12月の出会い

日時：12月10日(土)午後1時30分～4時
内容：クリスマス会～手品とビンゴゲーム～

会費：なし
場所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎06-6757-8574

■《てくてく・すみよし》12月の出会い

日時：12月10日(土)午後1時～4時
内容：年忘れカラオケ大会
場所：シダックス長居店1階パーティールーム
会費：1000円(ソフトドリンク付き)
申し込み締切り：12月4日
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」12月の出会い

日時：12月4日(日)午後1時30分～4時
内容：折り紙で来年の干支のイヌの飾り物を作りましょう
講師：山田富夫氏
会費：なし
場所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
田村 ☎06-6913-7070

■「サロン北」12月の出会い

日時：12月10日(土)
午後2時30分～3時30分(開場2時)
内容：気軽に楽しむ「オーケストラ」
「青い山脈」「ふるさと」「手のひらを太陽に」など、お子さんからお年寄りまで楽しんでいただける歌謡曲・童謡・セミクラシックを演奏！
出演：オーケストラ「響」
参加費：無料
場所：(株)楽浪 北梅田介護センター
大阪市北区本庄西1-9-12
朝日プラザ北梅田1階
問い合わせ先：障害者福祉作業センター
「たけのこ」内 ☎06-6372-8074

■「サロンいたみ」12月の出会いはお休みです。

もういくつねると・・・

門松 こま回し

はねつき たこあげ

そして おせち

昔なつかしい

のどかな

お正月の朝

もらった人も 思わず

歌いたくなる

うれしい 楽しい

「童謡♪絵はがき」

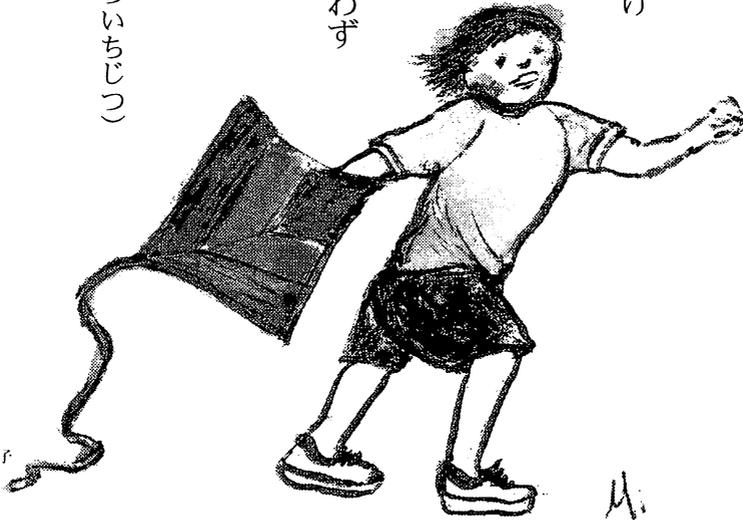
・ 1月1日 (いちがついちじつ)

・ お正月

・ ひとめふため

・ 正月のうた

・ 凧あがれ



え：石田美禰子

サロン20周年記念
童謡♪絵はがき

■5枚1組 ¥180

寄りみち



承前。「インターネットを利用している人なら、クリック一つで、5年前だろうが、15年前だろうが、簡単にそのときどきのサロン紙を見ることができる」・・・というのを讀んだ方から「早速、自分が出ている号を開いてみました。(知)さんの言われるように『タイムマシンの窓をのぞいている気分』を味わえました。めくるうち<サロン・あべの>20年の歴史をひしひしと感じました」と。(石)

<サロン・あべの>VOL.233 発行：平成17(2005)年11月19日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)